

学校支援実践講座 交流会

～地域の方との交流を通していじめを未然に防ぐ～

「学校支援実践講座」とは、学校と地域住民とが力を合わせていじめを未然に防止することを目的とする市川市独自の取り組み（学校地域連携推進課）です。

学校支援実践講座の受講者は、「子どもたちの健全な育成を支援することに興味・関心があり、子どもたちや先生、学校の力になりたい」という市民の方々です。人権等に関する講座を受講後、交流会に向けた演習を行い、9月から2月にかけて小中学校での「交流会」に参加します。

講座の受講者 = 学校に対する「地域支援者」

今年度は、学校の授業内で行われる「学校支援講座 交流会」に、小・中学校合わせて30校以上の学校から依頼があったそうです。

「交流会」では、5～6人のグループに地域支援者の方が1名入り、架空の事例を基にそれぞれが考えたことを伝え、話し合います。地域支援者の方が子どもたちの意見を受容的・共感的に聴きながらグループでの進行役を務めています。下記の写真は、令和6年1月19日（金）に南行徳中学校で行った交流会の様子です。



（生徒の感想）

- テーマが人間関係のことで少し難しく、自分たちだけではなかなか意見が出なかったけど、支援者の方の問いかけによって新たに考えることができた。
- 支援者の方が話しかけてくださったので話しやすかった。
- 自分たちだけで考える時とは違う視点で考えることができた。
- いつもはあまり発表をしないけど、した方がいいかなと思ったし、したいなとも思った。みんなの話にも入れてよかった。

（地域支援者の方々より）

- 意見を聞くだけでよければ！！何かお手伝いできれば！！と思って参加しています。
- 小学校3年生から中学校3年生までで行っていますが、学年によって考えや様子が違うところが楽しい！！楽しみです！！
- 意見が活発に出て、自分からなかなか言えないお子さんも、問いかけると自分の考えをしっかり伝えてくれた。「先生はどう思う？」と聞く場面もあり、先生との信頼関係が成り立っている学級の雰囲気を感じた。

生徒によって、「言葉」「気持ち」「これからのこと」と、考える（注目する）視点に違いがあり、いろいろな考えが出ていました。また、自分事として支援者の方と一緒に考える姿や、グループで出た意見を全体に伝える支援者の方に自然と体を向けて聞く姿等から、生徒の真剣さと心の温かさを感じました。

【教育センター】